

### 3 月チャプレン便り

## 「自分のすばらしさ」

数年前にアメリカと東南アジアの子供たちと日本の子供たちの自己評価を比較したことがありました。それによると、「あなたは人気のある子か」との問いに、バンコクの子の56%に対して、日本の子は8%しか「はい」と答えていません。成績の自己評価も「とても良い」「かなり良い」と答えた子が、日本では18%、ロサンゼルス69%や、オークランド(ニュージーランド)の63%にくらべると格段に低い結果でした。

ある日本企業で、より良い自分づくりのために、お互いに良い点と悪い点を言い合うことにしました。すると、良い点を聞くときは、なんとなく恥ずかしい、悪い点を聞くときは、緊張のあまり顔が熱くなり、どうしても真正面からそれを受け止めることができなかつたと、ある方が語っていました。

自分に自信がない、どうやらこれが原因のようです。専門家は、「存在の不安」という言葉を使いました。私という存在に自信がない、不安なのです。これはどうしてなのでしょう。

赤ちゃんは、そこにいてだけで、かわいいものです。何かできるわけでもなく、できるとすれば泣くこと、寝ることぐらいです。それなのに赤ちゃんは、そこに命があるだけで、すばらしく、そっくりそのまま受け入れられます。つまり、存在そのものがしっかりと受けとめられているのです！

ところが、どういうわけか、だんだんと大きくなるにつれて、何かができる、できないということで評価されるようになっていきます。赤ちゃんのように存在しているだけで素晴らしいとはなかなか言ってもらえなくなっていきます。そうすると子どもは、しだいに自分の存在に不安を感じるようになっていきます。

そのような子供が大人になっていくわけですから、大人になっても自分に自信を持ってなくなって不安を抱えるようになっていきます。

しかし、神は、こう言っておられます。

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」

イザヤ書43章4節 新改訳聖書

この神の言葉に耳をかたむけ、聞き続けていく時に、わたしたちは、本当の自分の素晴らしさに気づき、前向き肯定的に生きていけるのではないのでしょうか。

石川三育保育園チャプレン 北 睦 夫